

| | |
|-------|-------|
| 普及項目 | 養殖・流通 |
| 漁業種類等 | 養殖 |
| 対象魚類 | マガキ |
| 対象海域 | 八代海 |

県南地区でのマガキ養殖指導及び広域連携の取組み

県南広域本部水産課・吉川 真季

【背景・目的】

八代海では、アサリ資源の減少、ノリ養殖の不振、漁船漁業における水揚量の減少等により漁業者の経営は厳しい状況にある。このような中、県南地区の三角町、鏡町、芦北町、津奈木町、水俣市の5地先では、新たな収入源として、マガキの養殖に取り組んでいる。そこで、漁協及び生産者に対して養殖管理等の指導を実施することで、マガキ養殖の安定生産を図り、販売体制整備による地域振興に資することを目的とした。

【普及の内容・特徴】

(1) 同一手法による生残調査及び養殖管理指導

5地先において、生産者及び関係者によって平成30年9～10月時点（脱貝前）の生残状況が調査され、結果は図1のとおりであった。

水産課は、各地先での調査における現地指導を行い、地先ごとの生残率、生残していたマガキの個数及び殻付重量から重量組成や出荷数量の推定も行った。また、前年度あるいは地区間で比較した結果を、当該漁期の販売計画策定及び販路開拓の基礎資料とするため漁協や生産者に提供した（図2）。

(2) マガキ種苗の共同購入における広域連携等の取組み

前年度開催された不知火地区マガキ養殖生産推進会議において、生産者からマガキ種苗の購入の連携について検討していきたいという意見が出されていた。

そこで、鏡町、芦北町、津奈木町、水俣市地先で養殖する平成31年度漁期生産分の種苗について共同購入を試みることにし、水産課が各生産地間の連絡調整を行い、平成30年11月3日に宮城県から種苗の共同購入を行った。宮城県からトラックで搬入された種苗を、鏡町地先分を下した後、他の3地区分の種苗を別のトラックに積み替えて搬送し、大きなトラブルなく導入することが出来た（図3）。

【成果・活用】

脱貝を行う前に調査を実施し結果が分かる事は、その漁期の生産量の推定や販売計画策定等に役立った。生産者が地先の特性を把握し養殖手法を検討するためにも、長期的な調査が必要であり、今後も生産者主導による調査が実施されるよう指導していく。

また、マガキ種苗の共同購入については、生産者から「コスト低減や来春の種苗の沖出しを早めることが可能となる」等の感想が聞かれたが、体制づくりなどの課題が残っており、引き続き指導が必要である。

| | | ロープ 本数 | 生残率 | 規格外 | 豆 | 小 | 並 | 大 |
|------|-------|-----------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 三角町 | H30 | 4 | 45.9% | 17% | 6% | 12% | 42% | 23% |
| | (H29) | (3) | (23.1%) | (49%) | (31%) | (10%) | (11%) | (0%) |
| 鏡町 | H30 | 5 | 33.7% | 22% | 22% | 24% | 30% | 1% |
| | (H29) | (10) | (28.0%) | (13%) | (16%) | (19%) | (38%) | (15%) |
| 芦北町 | H30 | 4 | 17.0% | 75% | 23% | 2% | 0% | 0% |
| | (H29) | (6) | (33.7%) | (22%) | (30%) | (22%) | (25%) | (1%) |
| 津奈木町 | H30 | 5 | 39.3% | 99% | 1% | 0% | 0% | 0% |
| | (H29) | (6) | (36.7%) | (64%) | (23%) | (10%) | (4%) | (0%) |
| 水俣市 | H30 | 8 | 42.7% | 78% | 15% | 6% | 1% | 0% |
| | (H29) | (6) | (47.0%) | (49%) | (23%) | (16%) | (12%) | (0%) |

図1 各地先におけるマガキ生残調査結果

H30年度マガキサイズ組成(三角町漁協) ※重量ベース

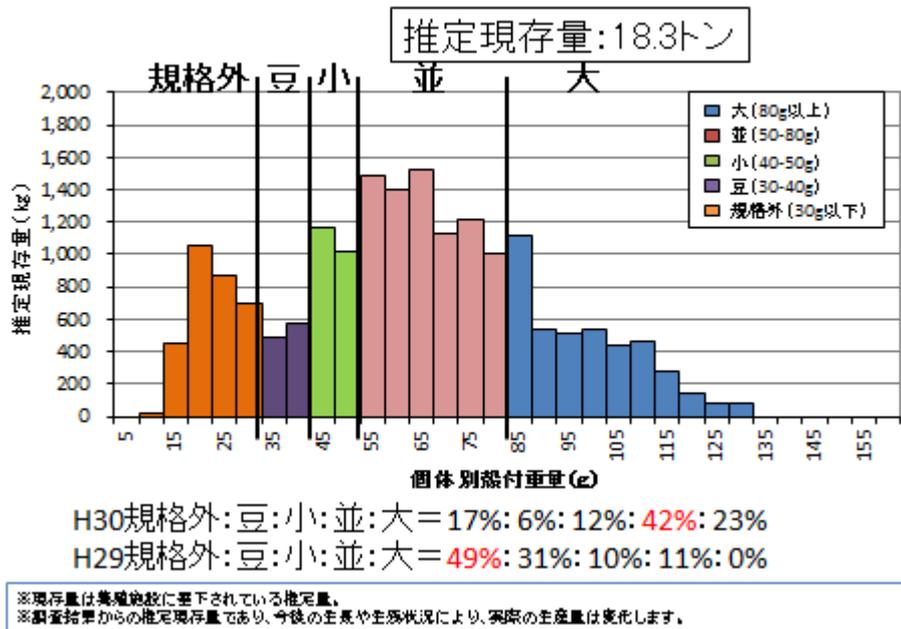


図2 マガキ生残調査から推定したサイズ別推定重量組成 (三角町漁協分)



図3 マガキ種苗の共同購入